

世界遺産学学位プログラム(博士前期課程)

必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATV001	世界遺産論	1	2.0	1・2	春AB	水2,3	人社B218	池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 滝沢 誠, 野中 勝利, 松井 圭介, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人	この科目は、世界遺産学学位プログラム博士前期課程1年次の必修科目である。世界遺産学学位プログラム教員の研究の紹介のほか、学生の研究発表等を予定する。国際遺産学・遺産の評価と保存・マネジメントとプランニング分野に分かれて議論を行い、研究に必要な基本的視点を確立する。また、最新の遺産保護・活用事例に関する研究・報告やサイトへの実際の見学を通じて、最先端の研究に触れる。履修生は、最終の2週において、研究対象となりうるテーマについて発表することを求められる。	英語運用能力が必要な場合もある。(日本語話者向け) 対面・オンライン(同時双方向型) 希望者はオンライン受講可能
OATV002	世界遺産特別演習	2	3.0	1	通年	随時		池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人	この科目は、世界遺産学学位プログラム博士前期課程1年次の必修科目である。本科目の演習時間数は、研究室ゼミの参加と、毎年度2月頭に実施する「修士論文進捗発表会」での発表・質疑応答に該当する。配属された各研究室ゼミでの専門書、先行研究の論文講読や合宿、研究発表等を行うことが求められる。これらの参加により、研究テーマや手法を決める。また、論文講読を通じて、学術調査や論文執筆の基礎的スキルを身につける。履修生は、年2回、演習の最後に、自らの修士研究テーマについて発表することを求められる。	対面・オンライン(同時双方向型) 英語運用能力が求められる場合がある。(日本語話者向け)
OATV003	世界遺産特別研究	2	6.0	2	通年	随時		池田 真利子, 黒田 乃生, 飯田 義彦, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人	この科目は、世界遺産学学位プログラム博士前期課程2年次の必修科目である。(1年次の履修は不可である) 修士2年次には、指導教員等から修士論文の研究についてゼミ等で定期的に学術指導を受け、ゼミ発表や修士論文中間発表を経て、修士論文作成と12月の提出を行い、最終試験において審査を受けることが求められる。なお、論文担当委員(2022年~2023年度:下田一太先生)の指示をよく聞くこと。	対面・オンライン(同時双方向型) 英語運用能力が求められる場合がある。(日本語話者向け)

選択科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATV101	文化遺産論	1	1.0	1・2	秋AB	木2	人社B218	下田 一太	文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。履修する大学院生は、文化遺産保護の理念と制度を理解するだけでなく、現代社会における文化財保護についてのディスカッションに参加し、意見を述べるができるようになることが求められる。	対面(オンライン併用型)
OATV102	文化遺産演習	2	2.0	1・2	春0夏季休業中	集中		黒田 乃生	本演習は世界文化遺産の保護の現状について体験を通じて学ぶことにある。1995年に世界遺産リストに登録された「白川郷五箇山の合掌造り集落」およびその周辺集落において維持管理活動の体験および実際に文化遺産がある地域で生活する関係者、文化財保護の担当者、まちづくりの団体との交流や聞き取りを通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および課題について考察する。現地実習の前には現地について学が課題を提出し、実習後には演習で体得した文化遺産保護の課題についてレポートを提出させる。	対面
OATV103	自然遺産論	1	1.0	1・2	春A	木1,2	人社B218	吉田 正人	自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性についても考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセーフティーネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。	01AH410と同一。
OATV104	自然遺産演習	2	2.0	1・2	夏季休業中	集中		吉田 正人	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。	

OATV105	宗教論	1	1.0	1・2	秋AB 秋C	集中	人社 B218	松井 圭介	近年、注目を集めるようになってきている世界における宗教とツーリズムとの関係をめぐる研究動向を紹介しながら、日本の世界遺産を事例に両者の関係を整理・検討する。とりわけ、世界文化遺産に登録された紀伊山地熊野古道、長崎・雲仙の潜伏キリシタン関連遺産などの事例をもとに、宗教遺産が観光資源として対象化される過程やその問題点を考える。本年度は、現地視察を実施し、上記に関する実践的な理解を深めることを主目的とする。	
OATV106	無形遺産論	1	1.0	1・2	秋C	集中	人社 B218	池田 真利子	日常生活に必須の「着」の無形遺産に関する多様な研究視点に触れ、無形遺産への理解を深めるとともに、無形遺産が持つ文化・経済・社会的価値について考究する。なお、2023年度は結城紬の研究に取り組まれていた湯澤規子先生（法政大学）を講師にお招きし、2024年1月22日～1月31日（予定）の間の3日間、集中講義の形式で実施予定である。 実施スケジュール： 1日目（後日日程報告）講義 無形文化遺産から考える在来的経済発展論 2日目（後日日程報告）講義 無形文化遺産の発展開としての「食文化」 3日目（後日日程報告）フィールドトリップ（結城紬の見学と体験） 参考）2022年度「無形遺産論」 『越境するファッション・スタディーズ』（ナカニシヤ出版）より、高木陽子・松本健太郎・本橋弥生・沢辺満智子・高馬京子先生の5名の先生をお招きし、当該書籍の内容のほか、特にファッションに関係して講演いただきました。	日本語運用能力があることが望ましい。 対面（オンライン併用型）、オンライン（同時双方向型）
OATV107	遺産保護行政論	1	1.0	1・2	秋AB	集中		下田 一太	日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて理解し、日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。文化庁の遺産保護担当者から、直接、遺産保護に関わる法制度、行政のシステムに加えて、具体的な遺産保護の事例についてその経験を伺い、日本の遺産保護行政の成果と課題について学ぶ。	非常勤講師 実務経験教員、オンライン（同時双方向型）
OATV109	世界遺産学インターンシップ	3	3.0	1・2	通年	応談		池田 真利子、黒田 乃生、飯田 義彦、伊藤 弘、上北 恭史、下田 一太、松井 敏也、八木 春生、吉田 正人	遺産の保存・活用に関わる行政機関・法人やサイト等において実地研修を行ない、現場でのノウハウを学ぶこと等が求められる。インターンシップ先の代表的なものには、世界遺産保全に関する行政機関・コンサルティング、研究所、テレビ局、博物館・美術館などがある。研修先の選択にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意すること。研修機関からの評価を考慮して、インターンシップの成果を評価する。	英語運用能力が求められる場合がある。（日本語話者向け）
OATV110	Global Learning: Heritage, Creativity and Art (グローバルに学ぶヘリテージ、創造性とアート)	4	1.0	1・2	春C	火4,5	人社 B218	池田 真利子、上北 恭史、松井 敏也	本科目は、「Creativity and Art (創造性とアート)」をキーワードとし、ヘリテージ学に関わる文理横断的な学術・学際的研究視点を日本語と外国語で学ぶことにある。そこで、「Designing Heritage Research」のテーマと関連付け、各年の学生/教員の関心や時流に合ったテーマを設定し、当該テーマに関する研究視点や事例、モデル等を学生と議論しながら解説する。 なお2023年度は、ヘリテージ学の「活用」に焦点を当て、地理学（地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査）・建築デザイン学（材料・構造・デザイン史・フィールド科学）・保存科学（行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法）を中核とし、上述の学域以外の研究者ら（メディア学・建築学・デザイン学等）も交えて、概念・理論から実践的事例まで幅広く紹介し、議論を行う。	対面、対面（オンライン併用型）、オンライン（同時双方向型）

OATV111	Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに 考究するヘリテージ研 究デザイン)	7	2.0	1・2	夏季休業 中 秋ABC	集中		池田 真利子, 上北 恭史, 松井 敏也	本科目のねらいは、「Creativity and Art (創造性 とアート)」で学んだ研究視点や各年設定の テーマに関連し、その研究方法やデータ取得方法 を大学/現地フィールドで具体的かつ実践的に学 ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけ でなく、自ら主体的にフィールド調査に取り組む 経験を得ることができる。また、「Global 「Creativity and Art (創造性とアート)」と連 携させることにより、国際的な学術議論を無理なく 考えに取り組むことができる。 なお2022年度は、ヘリテージ学の「活用」に焦 点を当て、地理学(地域空間変容・都市文化・地 域フィールド調査)・建築デザイン学(材料・構 造・デザイン史・フィールド科学)・保存科学 (行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法) を中核とし、フレキシブルなチーム(研究・情報 メディア記録・提案)に分かれ、地域貢献におけ る発展性を意識した学術的成果へと繋げる。 本科目では、専用のタブレット端末・録画機器 を最大限活用したグループ学習を行います。	一定の基準を設け、履 修生数を限定する場合 がある。【教学マネジ メント室支援科目】 オンライン(同時双方 向型)および対面の併 用:「プロジェクト ルーム(共同研究棟A 212)」および筑波大 学学内未活用施設での オンライン併用型演 習・作業(オンライン の場合には、 Microsoft TEAMS/STREAMを使 用)。および学外演習 (東京都・茨城県や市 区行政、東京都荒川 区・台東区および茨城 県つくば市近郊の未活 用遺産サイト等) 英語で授業。
OATV201	Global Heritage Studies (国際遺産論)	1	1.0	1・2	秋A	集中	人社 B218		歴史、哲学、公共政策など現代社会における遺産 保護を総体的にとらえて講述する。世界遺産条約 などの国際的な条約から各国の保護政策まで取り 上げる。	
OATV202	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産条 約)	1	1.0	1・2	秋A	集中		上北 恭史, 飯田 義彦, 池田 真利子	As the most influential instrument in the international heritage field, the UNESCO World Heritage Convention has been providing an important instructive framework to the member countries, from actual protection and conservation of individual heritage sites to the development of national heritage policies and administrations of countries. Encompassing history, philosophy and operational schemes, the lecture provides an overall picture of the international discussions developed in and around the World Heritage Convention.	非常勤講師: 稲葉信子
OATV203	World Heritage and International Cooperation (世界遺産 と国際協力)	1	1.0	1・2	春BC	集中		飯田 義彦, 吉田 正人, 池田 真利子	世界文化遺産・世界自然遺産に関わる国際協力の 事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関わ る国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、 日本の国際協力に関する枠組みについても取り上 げる。	非常勤講師: 長岡正 哲(ユネスコ) 外部講師: 長谷川基裕 (JICA) 英語で授業。
OATV204	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	1	1.0	1・2	秋AB	火5		池田 真利子	本講義では、1現在の世界遺産が直面する課題を 的確に知り、2その背景にある地域の実情を多角 的かつ分野横断的にみること、さらに3世界遺産 の維持のために必要不可欠とされている市民参加 の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッ パの遺産保存の在り方から探ること、4世界遺産 の多様化、5EUにおける最新の文化遺産を巡る動 向を理解することを通じて、世界遺産における市 民参加がどのようにして実現され得るのかを考え ることを目標とする。	対面、オンライン(同 時双方向型)
OATV205	World Heritage and Sustainability (世界 遺産と持続可能性)	1	1.0	1・2	秋C	集中		飯田 義彦	持続可能性概念について様々な保全制度と地域実 践事例から学ぶ。自然と文化の遺産管理におい て、持続可能性概念や国連の持続可能な開発目標 (SDGs)をいかに結びつけて社会実装を進めるか。 その上で、持続可能な社会づくりに向けたグロー バルとローカルの協働のあり方と将来方策につ いての自身の考えを深める。	英語で授業。

OATV206	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	1	1.0	1・2	秋C	集中		池田 真利子, 吉田 正人, 飯田 義彦	Students of Master and Doctoral degree programs will learn, how heritage and identity-related in the modern "global world", by knowing the recent national, regional, and local context, not only in Western European countries (such as Germany or Italy) but also in Eastern European countries (such as in former Eastern Germany) as well as in the global South (such as India). In the field of heritage preservation, practices rooted in civic engagement had much dedicated due to specific regional and political contexts, especially since the 1980s. Although, pragmatic academic discourses tend to ignore the national or regional context and conflicts emerged along with "Heritization(遺産化, isan-ka)" or "Institutionalisation(組織化, soshiki-ka)". This lecture will be assisted by Prof. Dr. Leo Schmidt, who has over thirty years developed the discipline of heritage studies base on practical, theoretical as well as academic views, to extend the further academic discussions online.	▼1/18 (水) 15:00-17:00 Prof. Dr. Leo Schmidt "The Berlin Wall (Die Mauer)" Today: Significance and Management ▼1/25 (水) 15:00-17:00 Prof. Dr. Alexandra Skedzuhn "Museum Island (Museumsinsel)" of Berlin ▼2/1 (水) 15:00-17:00 Prof. Dr. Leo Schmidt "Berlin Place (Berliner Schloss)" ▼2/6 (月) 15:00-17:00 Jens Casper Depl. - Ing. Architekt "Counterpreservation and Boros Sammlung: Knowledge and Practice" ▼2/13 (月) 15:00-17:00 Prof. Dr. Alexandra Skedzuhn-Safir and Nicole Franceschini "Marginalisation and Heritages, Tatoo Taboo" (Marginalisation, Heritage, Mapping, Spatial History /UK) 英語で授業。 対面. オンライン(同時双方向型)
OATV207	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	1	1.0	1・2	春B	集中		吉田 正人, 飯田 義彦, 池田 真利子	この授業では、地球環境の保全、遺産の保護と開発に関する国際条約と、世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会において、どのように遺産と共存し、環境を保全するとともに、持続的な社会を実現するかを学ぶ。	非常勤講師：堀江正彦, 外部講師：鈴木渉 英語で授業。
OATV208	Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	2	2.0	1・2	春C	集中		飯田 義彦, 吉田 正人	国内外におけるフィールド実習を通じて、遺産保護と持続可能な開発のバランスを取るための方策について、現地の関係者の取組や国際的な視点の双方から学ぶ。	現地実習(石川県白山市) 英語で授業。
OATV209	Advanced Practice of Heritage Studies (市民参加研究演習)	7	3.0	1・2	秋C 春季休業中	集中	人社 B216	池田 真利子	本演習は「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ国内外の学術的視点や知識に基づき、海外(主としてドイツ等の西ヨーロッパ)や国内のフィールドを実際に訪れ、より実践的に研究方法を習得することを目的とする。本科目のねらいは、OATV204「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し、その研究方法やデータ取得方法を大学/現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく、自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることができる。また、海外フィールド調査において、「自分が知りたいこと」の情報を得るため、英語やその他の国の言語能力を使用することで、国際的な学術議論を無理なく行うことができるようになる。 なお2021年度は初年度であり、かつコロナの状況により、海外フィールド調査が困難な場合、グループで日本国内およびオンライン調査を行う予定である。なお本科目では、専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行います。	英語で授業。 対面. オンライン(同時双方向型)

OATV301	建築遺産論	1	1.0	1・2	春AB	木3	人社 B218	下田 一太	多様な歴史的背景や環境条件、意匠の特徴や利用可能な材料の特性に根差した建築遺産の理解、分析、調査、記述の方法と視覚化、評価の方法を学び、そうした歴史的建造物の意義や価値を保存・継承するための修理や復元の理念と技術、それらを伝達するための整備や再生の幅広い手法や技術について、国内外の世界文化遺産を含む建築遺産を事例として理解する。授業を通じて、各自が関心を有する建築遺産に対して、必要とされる調査を実践的に適用するための知識を習得し、保存や活用のための具体的な提案ができるようになることを到達目標とする。	対面(オンライン併用型)
OATV302	建築遺産演習	2	3.0	1・2	通年	集中		下田 一太	建築遺産や周辺環境、建築と人との関係性を測量、記録し、図面化する手法について実践を通じて学ぶ。また、それらの記録や各種表現を、建築遺産やその地域の保存や活用のために利用し、提案を関係者に共有し議論する一連の過程を経験する。それらの過程において、建築遺産の研究や修復、活用における幅広い課題を理解し、建築の構造や意匠、技法の特質、建築空間の利用方法等を調査・分析する能力を養う。多様な専門的知識や技術を横断的に連携し、取り組む必要のある建築遺産の保存と活用の体験を通じて、多様な関係者と協働し、建築遺産の保護と活用に寄与することができるようにする。	学外の建築遺産にて対面で実施 対面
OATV303	美術遺産論I	1	1.0	1・2	春AB	火3	人社 B218	八木 春生	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された雲岡石窟や龍門石窟、また敦煌莫高窟などを対象とする。この授業では、その中でも北魏時代(439年から534年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで評価を行う。それぞれの石窟がいかなる目的のために、またいかなる人々のために開かれたか、そのためにいかなる工夫がなされたかを明らかにする。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、中国北魏時代の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようにする。	対面。オンライン(オンデマンド型)
OATV304	美術遺産論II	1	1.0	1・2	秋AB	火3	人社 B218	八木 春生	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、龍門石窟などの、唐時代前期(618年から655年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで、これらの石窟の評価を行う。敦煌莫高窟唐前期諸窟や、龍門石窟唐前期諸窟のほとんどは、北魏時代に国家により開かれた雲岡石窟と異なり、民間による造営である。浄土教が流行したこの時期に、人々がいかなる目的を持って造営し、またそれらの人々の要求を満足させるためにどのような工夫がなされたかを考察する。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、唐時代前期の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようにする。	対面。オンライン(オンデマンド型)
OATV305	美術遺産演習	2	2.0	1・2	秋A	集中		八木 春生	演習(学外)。大阪市立美術館や東京国立博物館など、中国の仏教造像や陶磁器などを多く所蔵する美術館、博物館で、学芸員から説明を受けながら、作品を様々な角度から観察することを体験する。これにより、斜め上、あるいは下方、また側面からでは、正面から見たのとは異なる印象を持つことを体験し、写真ではなく実物を見ることの重要性を理解できるようになる。また作品の基本的な取り扱い方を学び、実際に作品に触れることで、目でみただけでは理解できない情報を作品から得る方法を習得する。このような経験から、それらの作品を作った工人たちが、どのような角度で見られることや手取りを意識していたかを考えられるようになる。そして美術作品の時代性だけでなく、工人達の意図をより正しく理解できるようにする。	対面

OATV306	保存科学概論	1	1.0	1・2	春C	木4,5	人社 B218	松井 敏也	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。それにより、遺産や美術品の劣化や損傷し、その診断手法の確立、ならびに診断結果に対する総合的評価を立地環境と担当者らのスキルなどと併せて考慮する視野を構築することを旨とする。実践的処置技術については今後の社会及び環境変動を見据えた課題の抽出とその解決法を科学的に行う能力を習得する。	対面。オンライン(オンデマンド型)
OATV307	保存科学演習	2	2.0	1・2	春0夏季休業中	集中		松井 敏也	保存対象の活用状況や管理状態、地域の関わり方の調査から得られる課題を整理し、対象文化財の保存科学的調査を実施する。保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いた実地研修により習得させ、その分析、評価を関連分野の研究成果等と併せて総合的に考究させることを旨とする。また世界遺産をはじめとする遺跡や博物館において、専門家らによる指導助言を受けながら現場レベルの保存科学実務を学び、習得した技術や能力をさらに発展させる。	対面
OATV401	遺産整備計画論	1	1.0	1・2	春A	月4,5	人社 B218	上北 恭史	遺産の歴史的価値を評価し、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。教育の目標として、文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して適切な保護の方法と活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的考え方を学ぶ。授業の到達目標として、遺産保護制度の法令の理解および保護計画事例を把握し、遺産の持つ歴史的・社会的価値を評価する能力、需要に適した活用方法の提案ができる能力を身につける。また遺産の復元の問題や国際協力事例について事例を基に議論し、遺産を活かした地域再生について対応できる人材の育成を重視する。	対面。オンライン(同時双方向型)
OATV402	遺産整備計画演習	2	2.0	1・2	春AB	集中		上北 恭史	遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。授業目標として、遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画を立案できる能力をつける。到達目標として、遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画書の保存制度を手がかりに遺産保護の具体的手法について分析できるか確認する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法を提案できる能力をレポート等で確認する。	
OATV403	文化的景観論	1	1.0	1・2	春AB	火4	人社 B218	黒田 乃生	遺産としては比較的新しい概念である文化的景観について、景観の概念の変遷、世界遺産における文化的景観をめぐる議論と現状、日本の文化財における文化的景観の定義と保護、景観と社会の関係などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。講義全体を通じて他の文化遺産と文化的景観の特徴の異同を考究するための緒を与える。保全や概念について国内外の相違を紹介し、履修生とのディスカッションを通じて文化的景観の曖昧さや保護の課題について自ら考えることができるようにする。	対面。オンライン(同時双方向型)
OATV404	遺産観光論	1	1.0	1・2	秋AB	月4	人社 B218	伊藤 弘	観光に関する用語や意義、歴史のかつ現状の課題および計画論等に関して概説を行うと同時に、観光の対象となる文化資源や自然環境について、世界遺産や指定文化財、自然公園など制度上の評価に捉われない評価の考え方を整理する。利用と保護が持続的に同時に求められる、自然および文化を活かし続ける観光のあり方や取り組み手法、それに基づく観光地整備の考え方について、具体的事例を取り上げながら、その効果と課題を踏まえて考察する。	対面。オンライン(同時双方向型)
OATV405	プランニング演習	2	3.0	1・2	春0夏季休業中 秋AB	集中		伊藤 弘	自然および文化を、住民および来訪者がより深く理解できるような持続的な活用方策に関して、特定の資源を対象に、広域的な周辺環境および対象資源について、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業をグループワークを通して体験し、計画の考え方や作業の流れ、評価方法を理解する。また、毎回進捗報告会を実施することで、各自の考え方や主張を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションのやり方と、計画案に関するディスカッションを体験する。	対面

OATV406	インタープリテーション概論	1	1.0	1・2	春季休業中	集中		吉田 正人	<p>インタープリテーションおよびエコツーリズムの歴史・期待される効果・実施上の注意点や課題について理論的な概要を学習する。自然遺産および文化遺産の価値を利用者にどのように伝えるのか、その技術や伝えるべき対象の価値の捉え方について、実際の事例を体験することを通して考察する。教育目標は自然遺産・文化遺産の価値をとらえ、それを伝える技術を理解し、遺産の利活用と保全におけるインタープリター(エコツアーガイド)の果たす役割を理解することである。</p> <p>授業目標の到達目標は、インタープリテーション・プログラムを提案できるような能力を身につけることであり、その習得度はプレゼンテーションやレポート課題によって確認する。</p>	非常勤講師：古瀬浩史 対面
---------	---------------	---	-----	-----	-------	----	--	-------	--	------------------